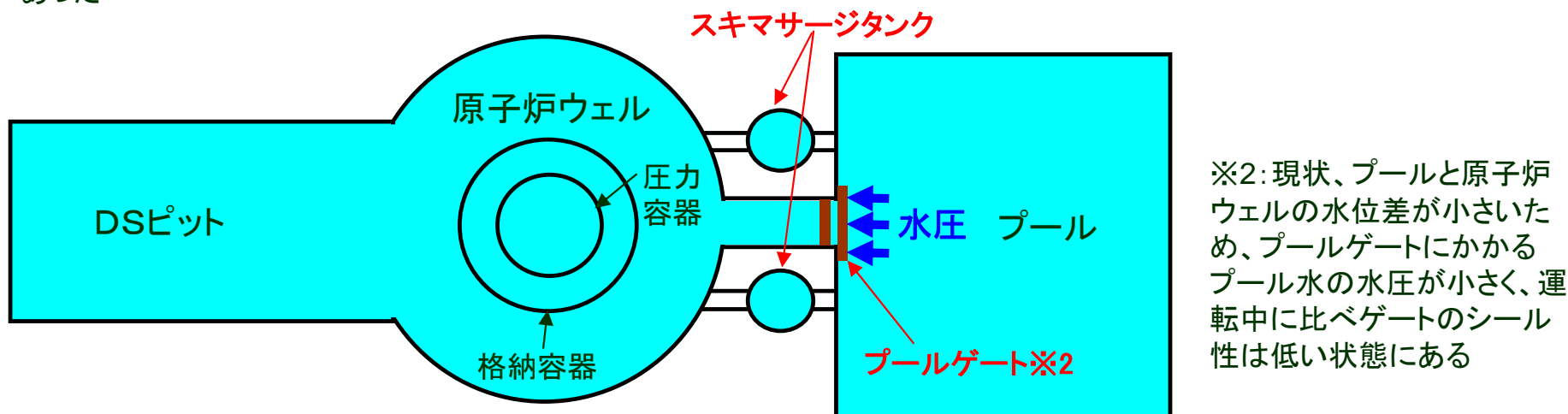
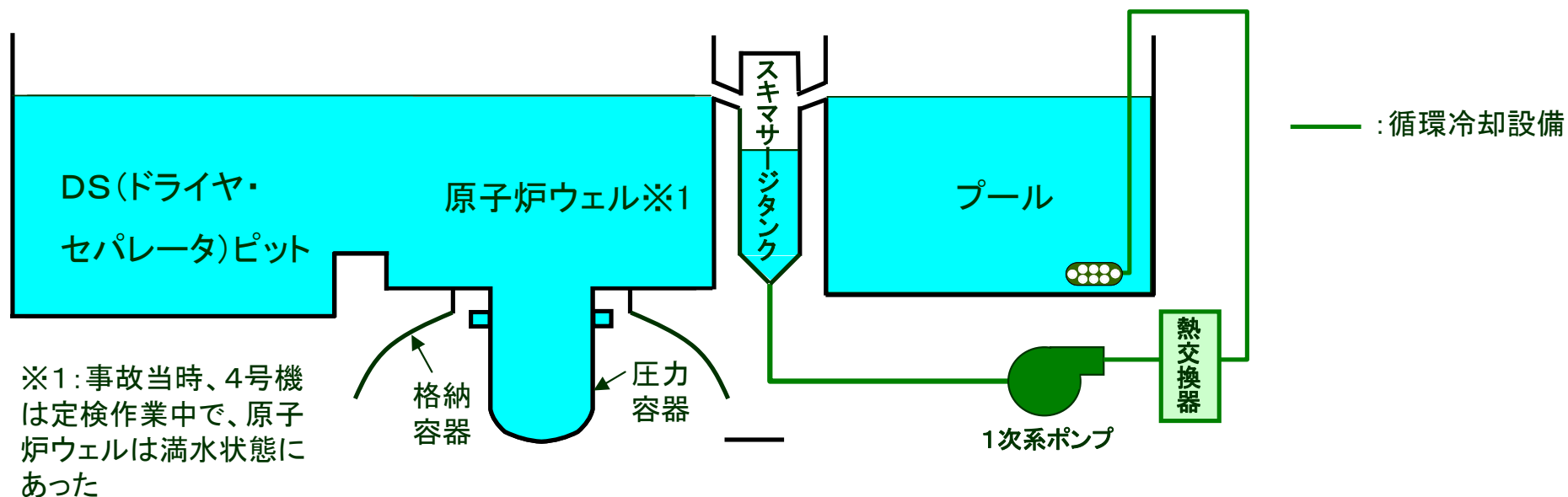


4号機使用済燃料貯蔵プール スキマサージタンク水位低下事象 について

平成24年1月23日
東京電力株式会社
福島第一安定化センター
冷却プロジェクト部

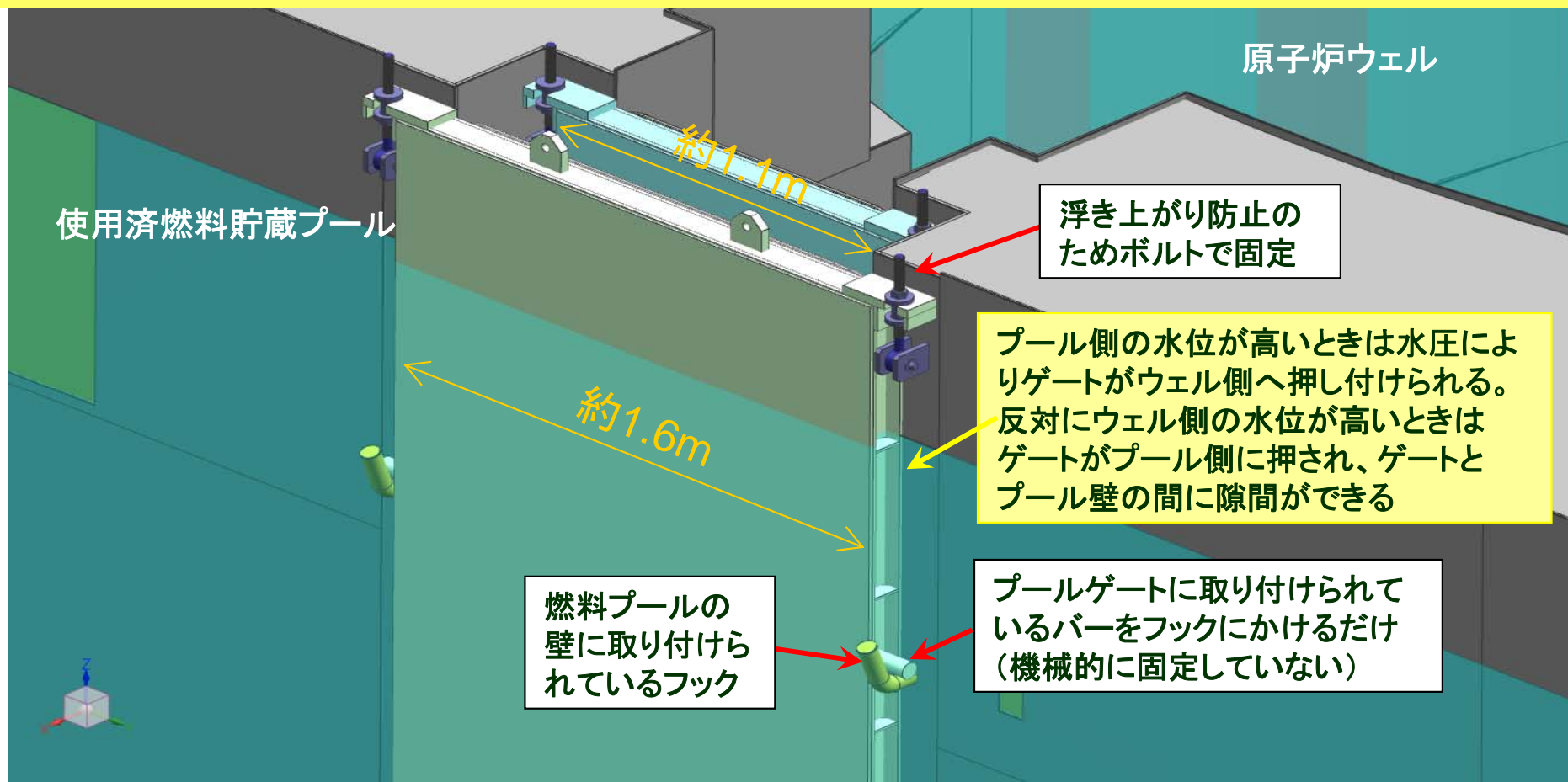
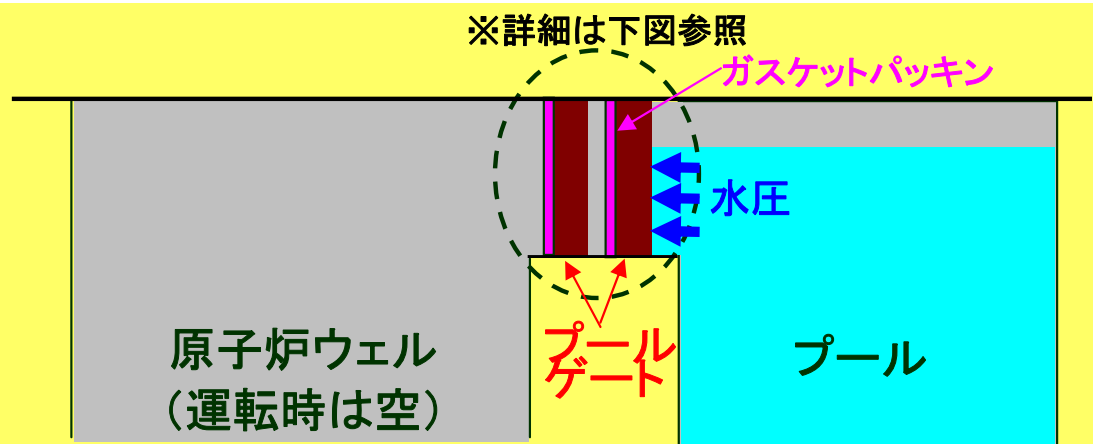
1. 事象の概要

- 1月1日、地震(14:28)後にスキマサージタンクの水位低下傾向を確認
- 地震に影響で使用済燃料プール(以下、プールという。)のプールゲートのシール性が低下し、プール水が原子炉ウェルに流入したことが原因と推定

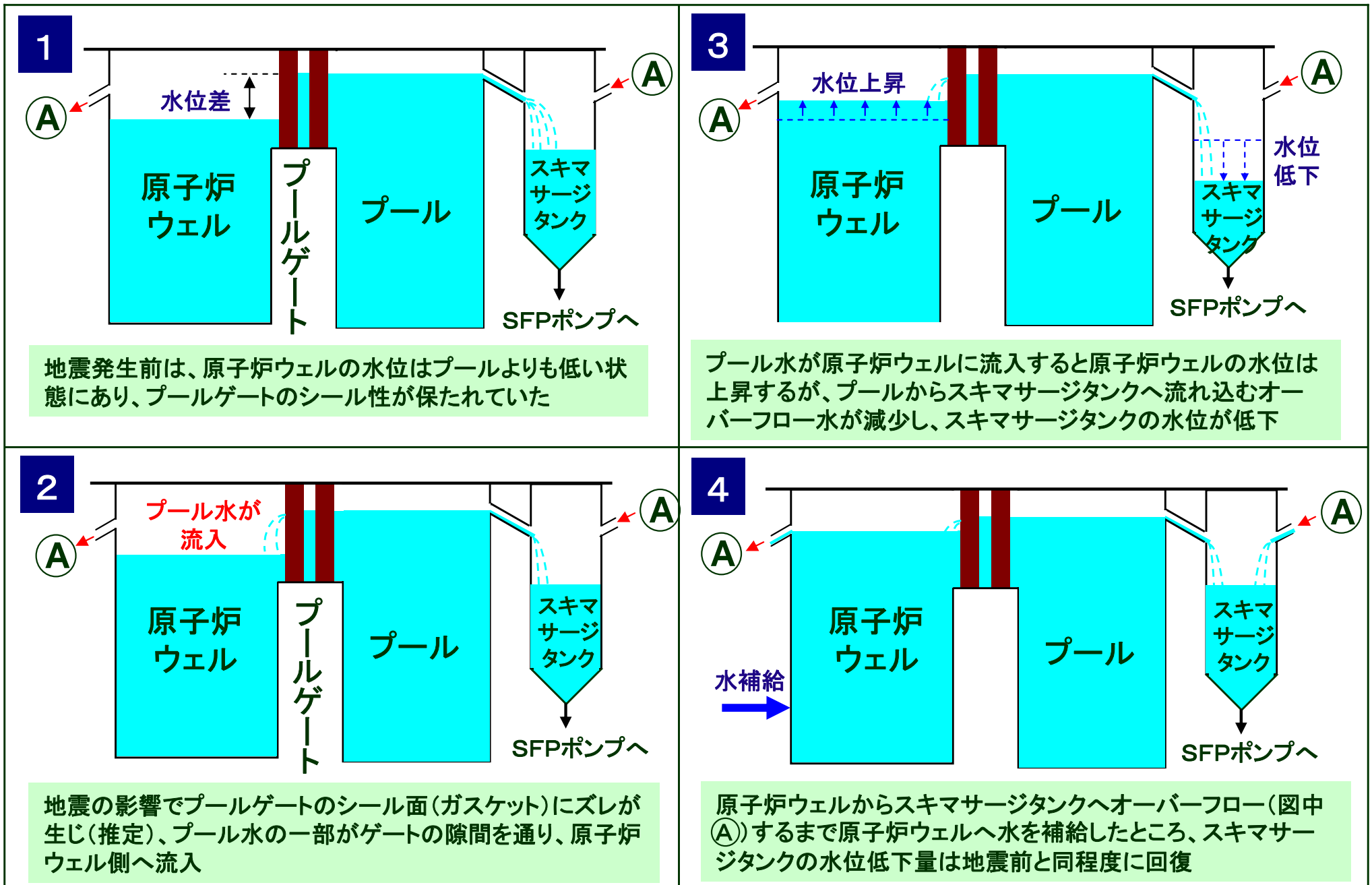


2. プールゲートの構造

- プール内保有水の**水圧**でゲートのガスケットパッキンを壁に押し付け、シール性を保つ
- 3箇所ある**フック**の上にゲートを乗せ、浮き上がり防止のため上部をボルトで固定



3. スキマサージタンク水位低下の推定メカニズム



4. 今後のプール水位の管理方法

◆ プールから原子炉ウェルへの流入状況

- 1月6日、22日の現場確認において、原子炉ウェルからスキマサージタンクへのオーバーフローを確認。このことから現在も、

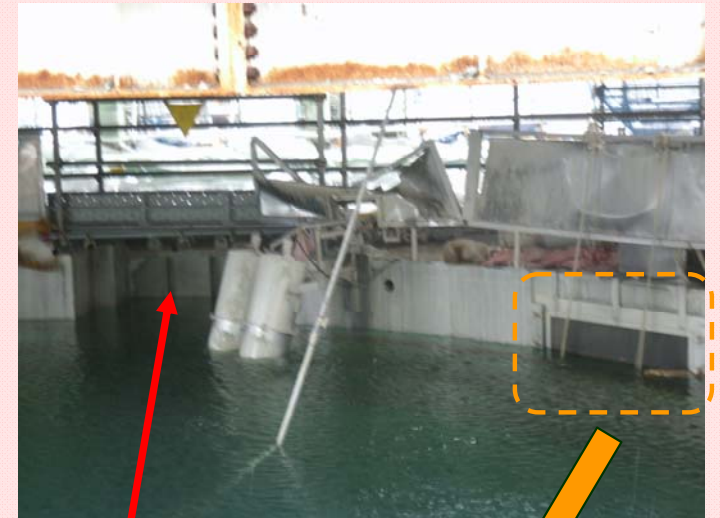
→ プール→原子炉ウェル→スキマサージタンク

の循環経路ができている可能性がある

◆ 今後のプール水位の管理

- プールの水位監視に加えて**原子炉ウェルの水位も監視(水位計+カメラ)**し、プールと原子炉ウェルの水位を一体で管理
- 原子炉ウェルの水位もオーバーフロー付近に維持→自然蒸発により原子炉ウェルの水位が低下した時には適宜、原子炉ウェルへ水を補給

原子炉ウェルの水位状況
(1月22日撮影)



プールゲート

スキマサージタンク流入口



水面